

# <提案書説明>

keyword—  
 “OPEN DOOR” / 「もう一つの家」 / 木漏れ日空間

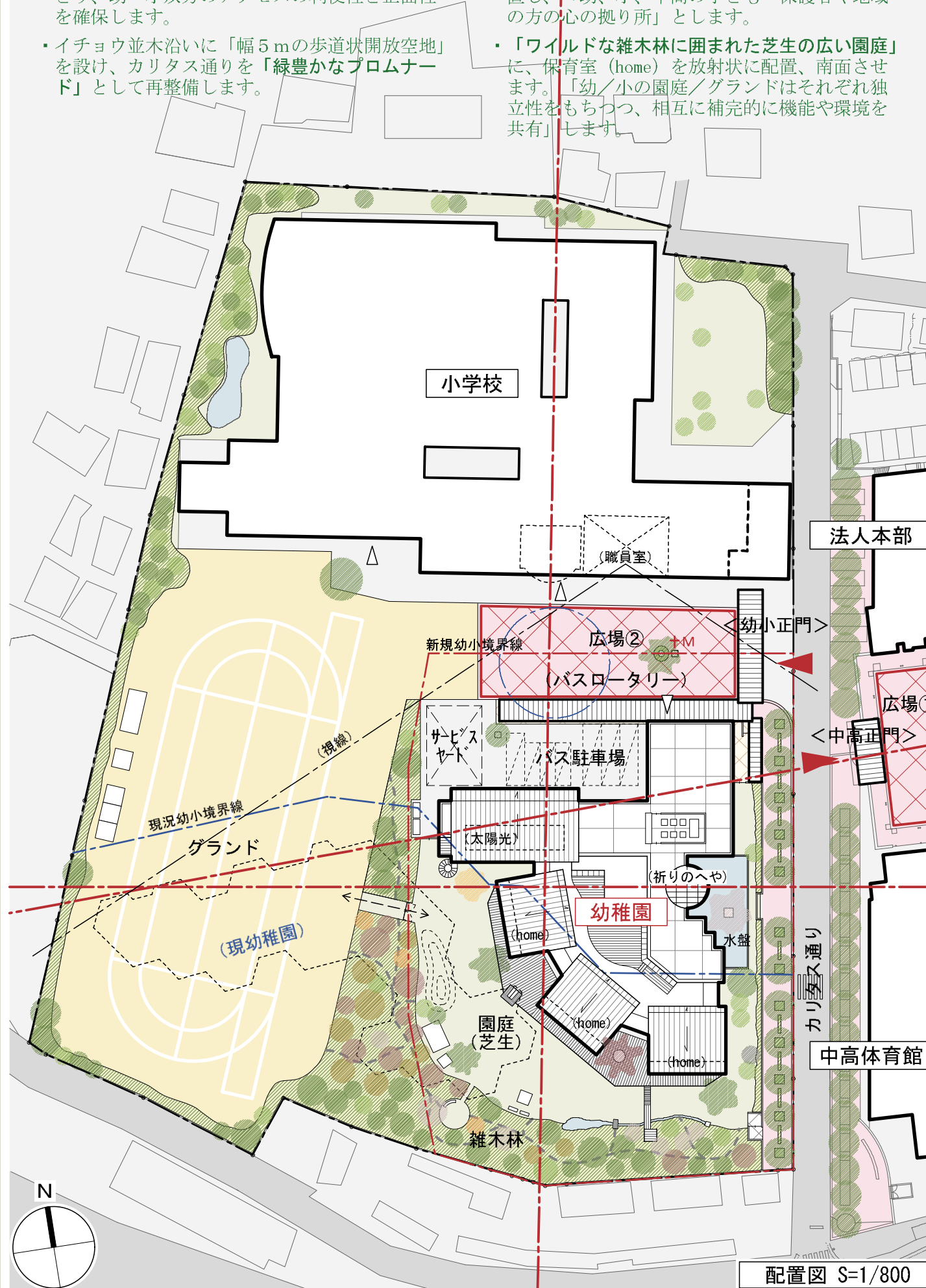
私たちは、カリタス学園幼稚園新園舎のあるべき建築空間の形を、「新しいモンテッソーリ教育の場としての“OPEN DOORな”スペース」という概念で捉え、その建築を提案します。それは、子どもたちが「愛の中で自由に大きく育つ『もう一つの家』」；神の家です。

●実績作品「東京サレジオ学園／育英学院サレジオ小・中学校」は、私たちのこれまでの設計活動の原点をなす作品ですが、私たちが一貫して取り組んだのは、『Assistenza』（共にある）を児童養育／教育の理念とする、事業主（社会福祉法人／学校法人と修道会）の施設整備目的への、「建築的最適解の提示」でした。また、「たかいどいちご保育園・GHたかいどの里」は、過密な既存住宅地に木造3階建てで計画する保育園と高齢者グループホームの合築施設で、「陽当たりや緑陰」、「広い空間や狭い場所」、「子どもと大人；スタッフ・保護者・地域住民」などが、自然で穏やかに混在し調和する状態／福祉的生活空間；「木漏れ日空間」を作り出すことを目指しました。

●私たちはカリタス幼稚園新園舎の建築でも、そこにこの「木漏れ日空間」を相応しい形で実現したいと考えます。すなわちそれが、私たちがここに提案する「カリタス学園型モンテッソーリ教育空間」です。そこは、保育室（home）とその周りに開放的でフラット、ユニバーサルなフロア；hallが広がり、連続する低く長い「教具棚」や高さのある衝立状の「多目的収納棚」などが緩やかに配置され、そこでは一人の子どもから大勢のグループまで、活動の目的や条件によってテンポラリーで自由な教育環境のセッティングが可能になる新しいモンテッソーリ教育の場です。園庭に開き、放射状に配置された各保育室（home）は、その要の位置に象徴的な形の「祈りのへや」（Oratorio）をもち、子どもたちやスタッフ、保護者などが常にその存在を感じ、自由な形で祈ることを可能にします。この日常の学習／生活活動すべてが自由に行われ、かつ「神様の存在を感じられる空間」、それが「カリタスの子どもたちのもう一つの家」＝カリタス幼稚園新園舎であることを願います。新園舎は、子どもたちが、「愛の中で自由に大きく」学び、遊び、祈ることを保証する自然で開放的な“OPEN DOORな”空間／環境です。

## ●提案5. 小、中高棟との適切な距離感を持ち、キャンパスの中心に位置する特徴的なたたずまいを持つ新園舎建築 — 配置計画

- ・「広場としてのバスロータリー」を小学校側にとり、幼・小双方のアクセスの利便性と正面性を確保します。
- ・「イチョウ並木沿いに「幅5mの歩道状開放空地」を設け、カリタス通りを「緑豊かなプロムナード」として再整備します。
- ・通りに面し、「水盤に浮かぶ祈りのへや」を配置し、「幼、小、中高の子ども・保護者や地域の方の心の拠り所」とします。
- ・「ワイルドな雑木林に囲まれた芝生の広い園庭」に、保育室（home）を放射状に配置、南面させます。「幼／小の園庭／グラウンドはそれぞれ独立性をもちつつ、相互に補完的に機能や環境を共有」します。



## ●提案6. 鉄骨と鉄筋コンクリートの「ハイブリッド構造」 — 構造計画

- ・2階建て共用空間エリア 鉄筋コンクリート造
- ・遊戯室小屋組 鉄骨造
- ・保育室-HALLエリア 鉄骨造
- ・「保育室-hallエリア」をスレンダーな鉄骨造とし、軽快なフレームによる明るく開放感のある空間を可能にします。その外周の2階建て「共用空間エリア」を、鉄筋コンクリート造（オープンビルディング）とし、地震時の十分な水平力を負担する強靱な建物にします。
- ・支持地盤が浅く地耐力が十分なことから、杭工事を必要としない直接基礎を採用します（工期短縮とコスト低減）。

## ●提案7. 健康的で穏やかな温熱環境の保育空間 — 設備計画

- ・対流式エアコンによる冷房時の冷え過ぎ、暖房時の乾燥、室内空気汚染を解消する「床吹き出し輻射冷暖房」により、保育空間を緩やかな輻射の温熱環境で保ちます。
- ・「LPG熱源ヒートポンプエアコン（GPA）方式の採用」により、高圧受変電設備を必要としない「低圧受電」で賄います。それにより、「エネルギーベストミックス」で地球環境に貢献し、ランニングコストを抑え、震災時の安心な一時居留を確保出来ます。
- ・遊戯室傾斜屋根面に、10～15kW程度の太陽電池を設置し、日中の施設利用電力に充当します。また、雨水を貯留し、広い園庭の水遣りや池の補給水、夏季の保育室の屋根散水に利用します。

## ●提案8. 子どもの安全と工事のしやすさの調和を図る — 建て替え計画

- ・カリタス通り道路境界の石の塀を撤去、幼・小の登降園・通学安全通路としての歩道を確保し、仮囲いによりセットバックした工事ヤドを作ります。
- ・カリタス通り南側に臨時バス乗り場（屋根付き）を設け、幼稚園は仮の昇降口（園庭側）まで屋根付きの登降園路を設ける。（マリア像も「仮移転」する）。小学校は、安全な歩道を直進し、校舎に至る。
- ・幼稚園・小学校、施工者、設計監理者がよく協議し、相応しい仮設計画を見出し、共有する。

